

大阪府感染症発生動向調査週報 (速報)

2017 (平成 29) 年 第 30 週 (7 月 24 日～7 月 30 日)

今週のコメント

～ RS ウイルス感染症 ～ 流行が例年より早く始まる

定点把握感染症

「RS ウイルス感染症 増加」

第 30 週は前週比 5.8%減の 4,263 例の報告があった。報告の第 1 位は手足口病で以下、感染性胃腸炎、ヘルパンギーナ、A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎、RS ウイルス感染症の順で、上位 5 疾患の定点あたり報告数はそれぞれ 9.3、4.4、2.1、1.7、1.4 である。

手足口病は前週比 22%減の 1,858 例となり、南河内 12.2、大阪市西部 11.7、北河内 10.9、中河内 10.6、泉州 10.0 であった。

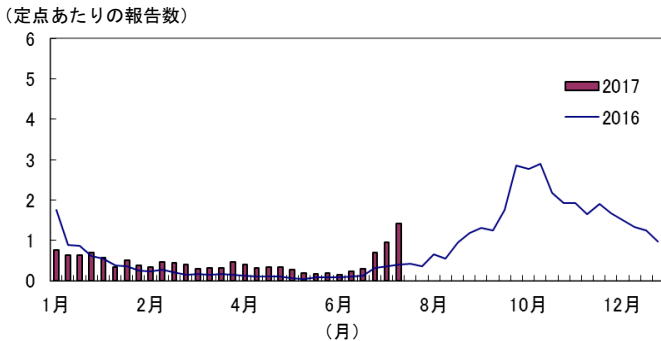
感染性胃腸炎は 14%増の 884 例で、南河内・中河内 7.1、北河内 6.2 の順である。

ヘルパンギーナは 9%増の 421 例で、大阪市北部 3.9、大阪市西部 3.5、三島 3.4 であった。

A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎は 7%減の 344 例で、三島 3.0、泉州 2.3、中河内 2.1 である。

RS ウイルス感染症は 48%増の 282 例で、大阪市北部 3.1、北河内 2.7、南河内 1.9 であり、全ブロックで増加した。

RS ウイルス感染症



手足口病

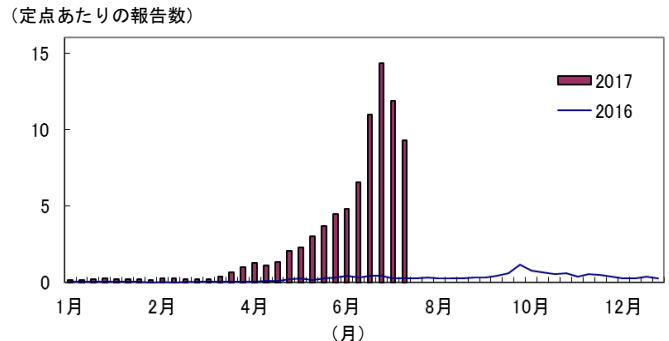


表 1. 大阪府小児科定点把握感染症の動向 (2017 (平成 29) 年 第 30 週 7 月 24 日～7 月 30 日)

第 30 週 の順位	第 29 週 の順位	感染症	2017 年 第 30 週の 定点あたり 報告数	前週比 増減	2016 年 第 30 週の 定点あたり 報告数	2017 年 第 30 週の 年齢別 患者発生数 最大割合値
1	1	手足口病	9.3	22%減	0.2	1 歳_29%
2	2	感染性胃腸炎	4.4	14%増	4.2	1 歳_18%
3	3	ヘルパンギーナ	2.1	9%増	3.1	1 歳_29%
4	4	A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1.7	7%減	1.7	4 歳_13%
5	5	RS ウイルス感染症	1.4	48%増	0.4	1 歳_43%

第 30 週のコメント

～ バンコマイシン耐性腸球菌感染症 ～ 大阪府内で報告が続いており、昨年比で倍のペースとなっています

全数把握感染症

バンコマイシン耐性腸球菌感染症

バンコマイシン耐性腸球菌（VRE）は、バンコマイシンに耐性を獲得した腸球菌である。術後患者や感染防御機能の低下した患者では腹膜炎、術創感染症、肺炎、敗血症などの感染症を引き起こす場合があるため、集中治療室や外科治療ユニットなど易感染者を治療する部門で問題となっており、臨床的、疫学的に重要な薬剤耐性菌である。VRE による術創感染症や腹膜炎などの治療は、抗菌薬の投与とともに感染巣の洗浄やドレナージなどを適宜組み合わせで行う。

[感染症疫学センターはこちらへ\(外部リンク\)](#)

[感染症の話\(国立感染症研究所\)](#)

(週別報告数)

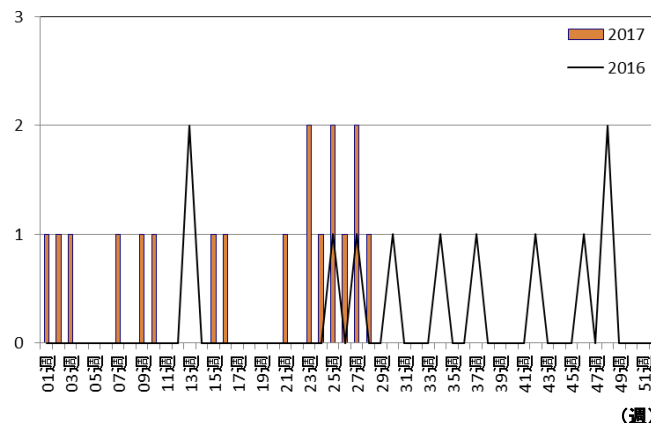


表 2. 大阪府全数報告数 (2017(平成 29)年 第 30 週 7 月 24 日—7 月 30 日)

*) 注意：この週報は速報性を重視しておりますので、今後の調査に応じて若干の変更が生じることがあります

1類感染症	報告はありません
2類感染症 (結核は除く)	報告はありません
3類感染症	腸管出血性大腸菌感染症 4名 (三島ブロック 2名、南河内ブロック 1名 泉州ブロック 1名、府内累積報告数 64名)
4類感染症	マラリア 1名 (豊能ブロック 1名、府内累積報告数 2名) レジオネラ症 1名 (堺市 1名、府内累積報告数 39名)
5類感染症 (麻しん、風しんは除く)	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症 2名 (豊能ブロック 1名、泉州ブロック 1名、府内累積報告数 71名) 侵襲性インフルエンザ菌感染症 1名 (堺市 1名、府内累積報告数 21名) 侵襲性肺炎球菌感染症 1名 (中河内ブロック 1名、府内累積報告数 167名) 梅毒 1名 (三島ブロック 1名、府内累積報告数 400名)
結核 (2017年5月分)	結核 新登録患者数:180名 (内 肺・喀痰塗抹陽性 82名) (府内累積報告数 773名、内 肺・喀痰塗抹陽性 316名)
麻しん、風しん	報告はありません

(2017年8月1日 集計分)